

道連ニュース

2024年11月号 No.215

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

2024年度 第3回理事会報告

10月17日(木)ポールスター札幌にて斎藤理事(北大生協)を議長に選出し、開催いたしました。冒頭、中島会長の開会挨拶ののち、以下の事項について提案があり、承認されました。

【議決事項】

1. 日本生協連「令和6年能登半島地震及び能登豪雨災害募金」拠出の件
2. 道連事務所賃貸契約締結の件
3. 北海道消費生活審議会委員候補の推薦について
4. 70周年事業組合員対象企画に関する委託契約締結の件

【協議事項】

1. 北海道生協連70周年記念事業計画(案)の進捗報告の件
2. 協同組合ネット北海道の取組の件…幹事会報告及び国際協同組合年2025記念事業の件

3. 子ども食堂北海道ネットワークの件…9月学習交流会報告及び10月支援事業者交流会報告
4. ほっかいどう若者応援★学生PJの件…25年度事業計画(案)及び地域ささえあい助成「協働を広める」申請の件
5. 10月22日-23日 日生協北海道・東北行政生協連絡会議 in 北海道開催の件
6. LPガス問題の取組の件…8/27意見交換会及びLPガス問題を考える会報告
3部料金制度施行に向けた取り組みについて
7. 灯油の適正価格と安定供給にむけた取組の件…11月4日灯油意見交換会への質問

【報告事項】

1. 般活動報告
2. 第2回理事会報告
3. 上期決算報告
4. 北海道からの通知及び友好団体・協賛・後援の件(高等教育費軽減団体署名・社会福祉基金講演会)
5. 日生協北海道・東北地連報告
6. 会員報告(大学生協事業連合)

子ども食堂北海道ネットワーク

運営者+支援者+行政交流会 実施報告

★距離がグッと近くなりました(^_-)★…相互信頼強化へ!

子ども食堂北海道ネットワーク事務局長 松本 克博

10月10日(木)13:30、秋晴れの空の下、初めての試みである“交流会”がポールスター4階にて開催されました。運営者21団体23名・支援者24組織28名・行政3団体5名+事務局の57名にて率直な意見交換となりました。自分たちが行ってきた“支援”が運営者さんにどう受け止められてどう活用されているのか?他の会社さんや組織はどんな思いでどんなレベルで取り組んでおられるのか?運営者さんからは頂いた“支援”がどの様に子ども達との触れ合いづくりに、地域のコミュニティー作りに役に立ってきたのか!どんな企業さんが私達を応援してくれていたのか?…

こんな思いを双方が持つ中、交流が進められ「なるほどこういう使い方がされているんだ!」「こんなに喜んでくれているんだ!」「こんなに面白い取り組みが色々あるんだ…」等々、支援者事業者さんの理解、共有が進むと共に、運営者さんにとってはかけがえのないパート

ナーとして今まで以上に“感謝”の気持ちを大切にしなければ!との強い思いが育まれた交流会になったものと感じております。

殆どの参加者のアンケートには「楽しかった!」「またの機会を楽しみにしています!」等々、“参加して良かった”というコメントが多く寄せられました。北海道生協連の様々な支援に改めて心から感謝申し上げます。



キャベツとじゃがいもを収穫して ホットドッグで食べよう



ホクレンくるるの杜で収穫体験！笑顔あふれる食育の一日

日時：10月6日(日)／場所：北広島市大曲377-1 ホクレン食と農のふれあいファーム くるるの杜

秋といえば美味しいものがたくさん収穫できる時期！ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」では、6月の「ハスカップを収穫して桜餅風おはぎを作ろう」に続き、親子12組と学生サポートメンバー12名が集まり、じゃがいも・キャベツの収穫体験を行いました。

子どもたちは、大人と一緒に土に触れ、作物の成長を間近に感じながら、大きなじゃがいもや重いキャベツを見つけることに夢中。学生メンバーのアドバイスも参考にしながら、汗だくになりながらも一生懸命収穫に取り組みました。

収穫後は、自分たちで収穫した新鮮な野菜を使った料理を味わいました。「こんなに甘い！」「自分で作ったのが一番おいしい！」と、子どもたちの笑顔が、収穫の喜びを物語っていました。

学生サポートメンバーにとっても、子どもたちと一緒に収穫から調理までを体験することは、かけがえない経験となりました。子どもたちの成長を間近で見守りながら、自分自身も成長を実感し、今回の食育体験は、子どもたちに食の大切さを伝えるだけでなく、大人も子どもも、そして学生も一緒に楽しみながら学べる、素晴らしい機会となりました。また参加した学生サポートメンバーは、子どもたちと一緒に普段できない経験を積むことができ、大きく成長できたと感じています。

今後も子どもたちが食や環境に興味を持ち、健やかに成長できるよう、様々な世代が交流できる場を創出していきます。

